

次世代の子どもたちが、リサイクルに取り組む企業等に出掛け、循環型社会についての理解を深めてもらうことをめざして



環境について専門的な知識や豊富な経験を持った「しまね環境アドバイザー等」による授業



実際に現場へ出向き「見る」「聞く」「触れる」などの体験を通して

子どもたちに

**思考力 判断力 表現力**が

身につくことを応援します。

**学校における 3R・適正処理学習支援事業概要**

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校が実施する、次の3つの要件を全て満たす取組

1 補助対象

- ①産業廃棄物の発生抑制、再資源化及び適正処理等に取り組む事業所・施設等の見学
- ②しまね環境アドバイザー及び、それに準ずる者を活用した学校での研修等の実施
- ③児童・生徒に対する3Rの高い啓発効果

2 補助対象経費

報償費、旅費、需用費、役務費、使用料及び賃借料、備品購入費 等  
但し、しまね環境アドバイザーの派遣に要する経費(1回分)は不要です。

3 補助額・補助率

1校につき30万円(上限額) 10分の10以内

4 募集期間

随時募集中

5 提出書類

県立学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校における3R・適正処理学習支援事業企画書(別紙1)</li> <li>②学校における3R・適正処理学習支援事業積算内訳(別紙2)</li> </ul>
小学校・中学校・市立学校 国立学校・私立学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校における3R・適正処理学習支援事業補助金交付申請書(様式第1号)</li> <li>②学校における3R・適正処理学習支援事業企画書(別紙1)</li> </ul>

6 審査

提出書類を審査し事業実施校を決定

※詳しくは環境政策課のホームページをごらんください

**しまね環境アドバイザーってどんな人?**

県では、県民のみなさまが環境について学び、理解を深めていただくため、環境について専門的な知識や豊富な経験を持った方を、『しまね環境アドバイザー』として登録しています。

<p><b>出雲 小豆澤 育</b> あずさざわ ひとし</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○農業の歴史と日本の行事など</li> <li>○農業の雑学</li> <li>○地球温暖化と農業とのかわり</li> <li>○世界の農業</li> </ul>	<p><b>出雲 日下 眞二</b> くさか しんじ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○環境負荷の軽減と企業の役割(廃棄物の減量とリサイクルの推進)</li> <li>○家庭から廃棄物は減らせる(環境を守るのは私たちの仕事)</li> </ul>	<p><b>松江 戸田 顕史</b> とだ けんじ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○淡水・汽水・海水の水生生物と生息環境</li> <li>○水生生物を用いた水質判定</li> <li>○宍道湖と中海の環境と生物</li> <li>○川や湖の生きものから水のきれいさを調べよう</li> <li>○川・湖・海のごみ問題を考えよう</li> <li>○川や湖の生きものを調べよう</li> </ul>
<p><b>松江 石原 孝子</b> いしはら たかこ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地球温暖化問題とエネルギー</li> <li>○省エネルギーの現状と家庭での取り組み</li> <li>○災害が増える地球温暖化の影響と未来</li> <li>○「なるほど放射線」クイズとエネルギー</li> <li>○地球温暖化と省エネルギーを考えよう!</li> <li>○宍道湖エコクルーズを通じた地域の環境</li> <li>○「ちよと昔の生活や環境を考える」</li> <li>○4R(3R)からエコを考える</li> </ul>	<p><b>松江 桑原 弘道</b> くわばら ひろみち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○斐伊川水系の自然環境とそこにすむ生き物</li> <li>○人々の暮らしと水辺の環境</li> <li>○身近な河川の水質調査</li> <li>○水辺にすむ生き物を調べてみよう</li> <li>○ごみを拾い分け、それが人や生き物にどんな影響を与えているか調べてみよう</li> <li>○河川の水のきれいさを調べてみよう</li> </ul>	<p><b>浜田 豊田 知世</b> とよた ともよ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○森林資源と木質バイオマスエネルギー</li> <li>○地域資源を活用した低炭素型まちづくり</li> <li>○開発途上国の環境問題と日本の役割</li> <li>○地域資源をつかったエネルギーの可能性</li> <li>○世界の環境問題と日本の関わり</li> <li>○持続可能な開発目標(SDGs)とこれからの地域づくり</li> </ul>
<p><b>出雲 岩崎 知久</b> いわさき ともひさ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○節約は美徳なり!省エネルギーで地球環境を守る</li> <li>○環境問題を自分の問題として考える</li> <li>○身近な生きものを通して自然とのつきあい方を考える(ガンジボタル・モリアオガエル等)</li> <li>○川の環境調査を通して地域の自然環境を考える</li> </ul>	<p><b>松江 桑原 正樹</b> くわばら まさき</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○宍道湖の生態系と漁業</li> <li>○宍道湖や中海の生きもの観察会</li> <li>○身近な河川での生きもの観察会</li> <li>○水生生物を用いた水質判定</li> <li>○川と海のつながり(魚の回遊)について</li> <li>○宍道湖の生態系と漁業</li> <li>○宍道湖や中海の生きもの観察会</li> <li>○身近な河川での生きもの観察会</li> <li>○水生生物を用いた水質判定</li> </ul>	<p><b>松江 中村 幹雄</b> なかむら みさお</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○汽水湖の生態系</li> <li>○ヤマトシジミの生態と漁業</li> <li>○水辺の教室</li> <li>○体験学習</li> <li>○宍道湖で遊んで食べる子どもたちの将来のために「水遊び」のできる場と機会をつくりたいと思います。</li> </ul>
<p><b>浜田 江川 敏雅</b> えがわ としまさ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○私たちの暮らしと地球温暖化</li> <li>○儲けにつながる省エネ術</li> <li>○家庭でするお得な節電対策</li> <li>○エネルギーのお話し</li> <li>○地球にやさしい生活</li> </ul>	<p><b>雲南 多久和 厚</b> たくわ あつし</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○一個の地球で足る暮らし方について(豊かさと何か)</li> <li>○地域資源を活用して「小さな循環」を創り出す</li> <li>○その資源を活用することで六次産業化の取り組み</li> <li>○山王寺樹田の視察案内</li> <li>○地域資源「まこも」のお話し</li> <li>○カマドを使って薪で炊飯体験など様々な自然体験</li> <li>○体験場所は雲南市の「冒険の森てんば」</li> </ul>	<p><b>松江 野崎 研</b> のざき けん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地球温暖化の影響と、家庭の省エネ</li> <li>○みみずコンポストで、ごみを堆肥にリサイクル</li> <li>○温暖化防止、みんなで地球を守るには</li> </ul>
<p><b>松江 尾崎 俊也</b> おさき としや</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○廃棄物の適正処理、リサイクルについて</li> <li>○事業所を対象にした廃棄物処理法の解説や優良処理業者の選定方法等について</li> <li>○家庭から出るごみがどのよう処理されるのか</li> <li>○ごみと環境問題</li> </ul>	<p><b>松江 田中 秀典</b> たなか ひでのり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生物多様性について(中海・宍道湖の水環境と生物など)</li> <li>○プロジェクトWETのプログラムを使った水に関する学習会</li> <li>○いろいろな環境とそこにすむ生き物について学ぼう調べてみよう!</li> <li>○ピオトーブをつくるお手伝い</li> </ul>	<p><b>松江 松本 一郎</b> まつもと いちろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○SDGsやESDに関わる内容</li> <li>○地域や学校現場と環境問題の関わり方</li> <li>○エネルギー環境教育</li> <li>○地球温暖化の科学的な背景と深層</li> <li>○宇宙と地球の話</li> <li>○泥団子や自然の中での遊び(保育の実演)</li> </ul>
<p><b>益田 金田 光明</b> かねだ みつあき</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「資源有限・再生無限」枯渇する地下資源から再利用する地上資源へ</li> <li>○ごみの山を宝の山に変える「アルミカンドリーム」</li> <li>○シニアからジュニアに伝えたい「恩古知新」</li> <li>○循環型社会を目指して、私たちができること</li> </ul>	<p><b>益田 常國 文江</b> つねくに ぶんえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○身体にも心にも素敵なエコ生活</li> <li>○もったいない衣類の話</li> <li>○「世界は今...」</li> <li>○エコな物作り講座</li> <li>○3R・循環型社会って何?</li> <li>○体験活動を生かした環境学習</li> <li>○目指せ!食・自然・生活グリーンコンシューマー</li> <li>○森や木の勉強会</li> <li>○再生可能エネルギー教室</li> </ul>	<p><b>出雲 森本 直知</b> もりもと なおのり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の環境公害史、河川・湖沼等の水質問題</li> <li>○地球温暖化問題</li> <li>○万葉の歴史を紐解く環境の変遷</li> <li>○人々のくらしと環境</li> <li>○身近な環境問題、温暖化酸性雨など</li> <li>○日本のエネルギーの変遷</li> </ul>
<p><b>津和野 上瀧口 琴代</b> かみがたくち ことよ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○エコクッキング講習会実施</li> <li>○台所からエコライフ</li> <li>○いなか流エコライフのすすめ</li> <li>○学校における3Rの学習をとおして自分たちができていることを考えよう</li> <li>○清流高津川を守るためにぼくたち、私たちができること</li> </ul>	<p><b>松江 梶 伸夫</b> とが のぶお</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地球温暖化に関する情報提供や取り組みなど</li> <li>○私たちの暮らしと省エネルギー</li> <li>○省資源や3Rに関すること</li> <li>○ごみやリサイクルのお話し</li> <li>○地球温暖化や省エネルギーのお話し</li> <li>○自分の未来のために環境を考えよう</li> </ul>	<p><b>松江 葭矢 崇司</b> よじや たかし</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○持続可能な地域をつくるには?</li> <li>○島根の自然を楽しむエコ生活術</li> <li>○地球ひとつのくらしをかんがえよう</li> <li>○「ちきゅうおんだんか」ってなんだろう?</li> </ul>
<p><b>邑智 木川 裕美</b> きがわひろみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○廃棄物のリサイクルについて</li> <li>○～産業廃棄物(木くず)の再生への取り組み～</li> <li>○木材の有効活用について</li> <li>○～堆肥再生・木質バイオマスエネルギー～</li> <li>○工事現場から出た木は、どのように再生される?</li> <li>○木材の有効活用について</li> <li>○～堆肥再生・木質バイオマスエネルギー～</li> </ul>	<p><b>地球環境</b> 地球温暖化・大気汚染・化学物質・気象</p> <p><b>生活環境</b> 循環型社会・ごみ・リサイクル・省資源</p>	<p><b>地域環境</b> 自然環境・水環境・生物多様性</p> <p><b>エネルギー</b> 再生可能エネルギー・省エネ</p>

この他にも...  
松江地方気象台にもご協力いただき、地球温暖化や気候変動のお話をさせていただきます。ご要望があれば、ご相談ください。

意東小学校の4年生の児童が、しまね環境アドバイザーの授業を受けました。

## 環境 アドバイザー授業

9月  
29日  
(火)

しまね環境アドバイザーの尾崎俊也先生を招き、松江市は、ごみの種類によって運ばれるごみ処理施設が違うことや、処理されたごみが再び資源として使われていること、海外のごみ処理事情などについて、スライド資料やクイズを交えながら学びました。



### 児童の感想

- いつも当たり前のように捨てているごみのことをとても詳しく教えていただきました。ごみの勉強をする前は、ごみがリサイクルされて、いろいろな物に使われているなんて知りませんでした。そして、ごみ処理場で働いている方々が、分別していないごみがあって困っていることや、苦勞して処理されていることを知りました。お父さんやお母さんに分別を忘れてはいけないことをちゃんと伝えたいです。
- 世界でどのようにごみが処理されているのかを知ることができました。処理をきちんとしている国もあれば、していない国もありました。いろいろな国を見て、ぼくは日本はきちんと処理されている国なんだと知ることができました。
- 「なぜ会社の名前をアースサポートにしたのですか。」と質問をしました。その理由は、アースは「地球」という意味で、サポートは「地球をサポートする」という意味だと分かりました。尾崎さんの話は、とても分かりやすかったです。ごみの行方が分かってうれしかったです。

### 先生の感想

教科書や資料集で事前に学習はしていたが、実際にごみ処理に携わっておられる方にごみの種類による処理場の違いや、資源としてリサイクルされたものの使い道などを詳しく紹介していただいたことで、理解を深めることができました。

## 西持田リサイクルプラザの見学

10月  
8日  
(木)

西持田リサイクルプラザは、松江市内で回収した、アルミ・スチール缶、びん、ペットボトルの処理を行う施設です。



### 児童の感想

- 西持田リサイクルプラザでは、「ペットボトルとキャップ、ラベルは別々で出すこと」や「コーヒーの入れ物は、ふたとピンとは分けて出すこと」を教えてくださいました。私たちがカン、ピン、ペットボトルをしっかり分別して出すと、処理される方が楽に作業できることが分かりました。
- 学校の授業で見たビデオだけでは分からないことがあったけど、見学に行ったら細かいところまで教えていただいたので良かったです。実際に計量機を使わせてもらえてうれしかったです。リサイクルプラザの方から3つのお願いを聞いたので、きちんと守りたいと思います。
- ごみのことを学校でたくさん知れて、全て分かり切ったと思っていただけ、ほかにもたくさんの理由や説明があったので、もっと知れて良かったです。また今度はちがう工場に行っているいろいろな処理の仕方も知りたいです。



大田市立川合小学校4年生の児童が、地元の方を講師に迎え、間伐材を活用したベンチづくり、出雲エネルギーセンター(出雲市芦渡町)の見学を行いました。

## 環境 アドバイザー授業

10月  
26日  
(月)



### 児童の感想

- 間伐材の皮をはいたら、つるつるになって木ってきれいだなあと思いました。皮をはぐのは難しかったけど、一気に皮がむけると気持ちよかったです。
- ベンチづくりに使った間伐材は、約40年前に植えた木でした。木は長生きです。
- 間伐材の皮をはいでいる時に、すごい手応えがあると思いました。長く立っていたしうこかなと思いました。ベンチづくりは、こんなに頭を使うんだと思いました。
- 川合小学校のじまんの広場になって、そこで休む人が良い広場だと思ってもらえるようにしたいです。

### 先生の感想

間伐材を活用して、4台のベンチを作りました。作業に入る前に講師の方より、木の年輪や特徴、木の良さなどについて話をさせていただきました。そして、木の皮をはぐ作業においては、はじめは固くて難しそうでしたが、コツをつかむと時間を忘れるくらいに集中して活動ができました。木の皮をはぐ道具を使い、すると木の皮がむける心地よさ、爽快感を感じられたようになると、楽しいという声があちこちで起こっていました。ベンチが完成すると、ベンチに座り楽しむ様子も見られました。「川合こいの広場」をさらにもっとより良いものになりたいという児童の思いが、どんどん膨らんできているように感じました。

## 出雲エネルギーセンターの見学

10月  
7日  
(水)

出雲エネルギーセンターは、燃えるごみを処理する施設です。出雲市、大田市、雲南市(吉田町、掛合町)、飯南町事務組合から、1日平均165トンの燃やせるごみが搬入され、最大で1日218トンのごみを処理できます。



### 児童の感想

- ごみの燃やし方が工夫されていて、灰を作らず、スラグにして埋め立て処分場の砂のかわりに使っていました。最後までむだにならない仕組みに驚きました。
- ごみを処理する時の熱をつかって電気を作っていることに驚きました。
- 機械の修理にたくさんのお金がかかっていることを知って、分別をきちんとしたいと思いました。

### 先生の感想

自分たちが出したごみがどれくらいの量でどのように処理されているかを実際に見たり感じたりすることができました。その後分別や3Rが大切だということに子どもたちが気づき、自分たちの生活を見直すきっかけとなりました。

# 益田市立中西小学校

中西小学校の4年生の児童が、益田地区広域クリーンセンター（益田市多田町）、  
有限会社金田商店（益田市昭和町）の見学とアドバイザー授業を受けました。

## 有限会社金田商店の 見学とアドバイザー授業

7月8日  
(水)

有限会社金田商店では、金属類・古紙・使用済み自動車・ペットボトル・ガラスびん・発砲スチロール・廃プラスチック等、様々な種類の再生資源を年間約12,000トン取扱っています。児童は、見学も兼ねて、しまね環境アドバイザー金田光明先生の授業を受けました。



### 児童の感想

- ごみになる前に「廃棄物」という名前だということを知りました。それが「ごみ」と「資源」に分かれることがわかりました。
- リサイクルのマークがあることに驚きました。知らないマークもあって、細かく分けられているんだなあと思いました。
- 磁石につくのはアルミ缶だと思っていたのに、スチール缶の方が磁石につくと分かってびっくりしました。
- 家ではあまり分別をしていないから、牛乳パックなどの分別からしてみたいと思います。
- ごみ処理の合言葉「K(きちんと分別)K(きれいにし出す)Y(やさしい心)」を守って、これからは、きちんと分別をして、ごみを集めてくださる人たちに、苦勞をさせるのではなく、楽をさせてあげたいです。



## 益田地区広域 クリーンセンターの見学

7月8日  
(水)

益田地区広域クリーンセンターは、地下1階地上4階建。平成19年9月30日に建設されました。益田市、津和野町、吉賀町のごみが搬入され、最大で1日62トンのごみを処理できます。



### 児童の感想

- 益田市の燃えるごみは1日に何十トンも出ているので、少しずつでも減らしていけないと、思いました。
- ごみクレーンがごみピットから沢山ごみを運ぶのを見て、ごみを減らさないといけないと感じました。
- ごみを燃やした後の灰を「スラグ」にして道路に使うなど、いろいろなものにリサイクルができてすごいと思いました。
- 昔よりごみが増えていると分かったの、私は、自分からごみを減らすように心がけたり、他の人にも呼びかけたりして、これ以上ごみの量が増えないように気をつけたいです。



# 津和野町立青原小学校

青原小学校の4年生の児童が、しまね環境アドバイザーの授業、  
鹿足郡リサイクルプラザ（鹿足郡吉賀町）の見学を行いました。

## 環境 アドバイザー授業

9月  
29日  
(火)

しまね環境アドバイザーの上潟口琴代先生を招き、どうしてごみを減らしていくことが大切なのか、ごみを減らすための分別の方法等について学びました。授業の最後には、これから自分でできることも考えました。



### 児童の感想

- 3R(リデュース、リユース、リサイクル)のなかで一番大切なのは、リデュース(ごみを減らす)ということがわかりました。
- ごみを減らすために、リデュースやリユースをがんばりたいと思いました。そうしたら、ごみは少し…いや、けっこうへると思いました。
- ペットボトルのラベルを燃えるごみとして捨てていたので、これからは捨てる前にマークを確認して分別しようと思いました。
- 分別ごみつりゲームをして、燃えるごみだと思ってたものが資源ごみでした。私は今まで燃えるごみに捨てていたから地球に悪いことをしていたなと思いました。
- 私は、ごはんを残すことがあるので、できれば残さず食べたいと思いました。
- 3Rのことを忘れていたので、3Rの勉強をして思い出せてよかったです。



## 鹿足郡リサイクル プラザ見学

10月  
8日  
(木)

鹿足郡リサイクルプラザは、鹿足郡内で収集されたごみのうち、容器包装プラスチック、商品プラスチック、ビン、缶、粗大ごみ、蛍光灯や乾電池等の有害ごみを資源として再生利用するために、より細かく選別し一時保管等を行う中間処理施設です。

また、リサイクルプラザ工場棟には展示室、啓発用学習コーナー、体験工房を備えています。



### 児童の感想

- 手選別のことを知ることができてよかったです。
- 最終処分場に、ごみがたくさんあったのでびっくりしました。
- 最終処分場は、あと15年くらいで全て埋められるそうです。
- ビンのかけらでキーホルダーを作ったので、かばんにつけようと思います。
- 私は今まで分別をまちがえていたので、話を聞いて分別方法がよくわかりました。
- リデュースやリユースをして、ごみを減らしたいと思いました。



益田東中学校の生徒が、アドバイザーの授業、益田市リサイクルプラザ（益田市下波田町）の見学を行いました。

## 環境 アドバイザー授業

9月  
16日  
(水)

### 生徒の感想

- 普段捨ててしまうものをリサイクルし、自分たちに役立つことに使っていると知って、とても驚きました。化学肥料や農薬を使わないから、安全でおいしい野菜ができると知りました。
- 化学肥料などの便利なものに頼ってばかりでなく、環境まで考えた消費をもっとしたいと思いました。少しの節約や使うものによって、環境への影響も変わってくると思うので、気を配りたいと思いました。
- その土地に合ったものやその土地にあるものを使って、別のものに活用するというのが、とても良いなと思いました。
- 捨ててしまうものを使っておいしい野菜が作れば、環境にもやさしい、高いお金もかからないので良いと思いました。

真砂公民館の方を講師に迎え、ぼかし(肥料)作り体験を行いました。



## 益田市リサイクル プラザの見学

10月  
15日  
(木)

### 生徒の感想

- ごみを汚いまま捨てるとただのごみだけ、きれいに捨てると資源なので、しっかりと洗って捨てるように心掛けたいです。
- ペットボトルをリサイクルすると、ポタンになって、ピンはガラスのタイルになったりすることが分かりました。
- 埋め立てごみが急激に増えていることを知って、今後、自分が捨てるものをきれいに洗って分別したり、ごみになりそうなものは買わないなど、ごみを増やさない活動をよりしていきたいと思いました。
- 埋め立て場に大量の埋め立てごみがあるのを見て、そのうち益田が埋め立て場ばかりになるのではないかと、少しこわくなりました。
- 例えば、食料品から出たごみが汚れていたらリサイクルに使えず埋め立てごみになる。リサイクルプラザの埋め立て場は、あと6、7年もつかもたないと言われてる。だから3Rを大切に、ごみを減らすことを目指していきたいです。

益田市リサイクルプラザには、『工場棟』と『啓発棟』があります。

『工場棟』では、益田市内で収集されたごみのうち、もう一度使える資源をより細かく分別しています。

『啓発棟』には、体験工房、再生品修理室、啓発・展示コーナー等を備えて、学習と体験の場になっています。



松江農林高等学校の生徒が、しまね環境アドバイザーの授業、松江バイオマス発電株式会社（松江市大井町）の見学を行いました。

## 環境 アドバイザー授業

6月  
18日  
(木)

### 生徒の感想

- まず初めに「経済を回しながら環境をきれいに保つ方法」についてグループで話し合いをしましたが、とても難しいと思いました。しかし、この課題についても、私たちが「先入観」を持っているからではないかと考えを改めるきっかけとなりました。人は思い込みをするせいで考え方や視野が狭くなり、思い込みをやめると考え方や視野が広がり、沢山の工夫ができるとお聞きし、これからの自分にとって大切なことだと感じました。
- 田舎ではスーパーやコンビニなどが全く無いから暮らしていくことはできないと決めつけていました。しかし、周りをよく見れば沢山の資源が広がっていて、それらを活用していけば何でもできるし、使えるということを学ぶことができました。自分が今まで持っていた固定観念に縛られすぎず自由に考えることは、環境問題や地域振興だけでなく様々な場面で活用できる思考だと思いました。
- 里山ハウスは、電気を風力や太陽光にし、バイオイレや薪ストーブを使うなど、環境的に負荷を減らす取り組みをされており、ここまで出来るということに驚きました。私も将来、多久和さんのように地域貢献をする大人になりたいです。
- まこもの葉は、出雲大社のしめ縄にも使われていることを初めて知ってびっくりしました。

しまね環境アドバイザーの多久和厚先生から、「棚田における自然環境の保全と地域振興の取組」について、お話などを伺いました。



## 松江バイオマス発電 株式会社の見学

10月  
30日  
(金)

### 生徒の感想

- 松江にバイオマス発電所があるということを知らなかったのが、意外と身近なものだと感じました。
- 変電所の周辺にこのような施設があるということを知りました。山の中なので木々に囲まれており、騒音対策もしっかり意識されているということが分かりました。再生可能エネルギーと原子力、電気がたくさん使われている今、どちらがよいのかなと思いました。
- 木質バイオマス発電は木を燃やすので二酸化炭素が発生すると思っていましたが、「カーボンニュートラル」という考え方で、逆に二酸化炭素を削減し、地球温暖化防止に貢献する発電方法であると知り驚きました。
- 私は「バイオマス発電」と聞いて、微生物を使って発電するかと想像していましたが、実際は木を燃やした際の水蒸気で発電することだったので驚きました。
- 1日250トンの木を燃やして発電していて、その使用されている木の大部分が島根県のもので、しかも、建築資材にも紙にも使えない部分を使っていることを知り、島根県の木を余すことなく活用されているのがとても良いなと思いました。しかし、竹は使用することができないそうです。里山にはびこる大量の竹をどうにかして活用できるクリーンな方法はないか、ぜひ考えてみたいと思いました。

松江バイオマス発電株式会社は、平成25年5月17日に建設されました。

年間発電量は、4,950キロワット。一般家庭約14,000世帯分の発電を行っています。

使用燃料は、県産材を主とする国産未利用材、製材残材系木質チップなど、年間、約8万8,000トン。そのうち、約9割(8万トン)は、県内の未利用材を使用しています。



# 島根県立松江養護学校安来分教室

松江養護学校安来分教室の生徒が、有限会社大成商事（松江市八幡町）を見学しました。

## 有限会社 大成商事の見学

9月  
10日  
(木)

有限会社大成商事では、解体工事、建築現場等で発生する金属くずや木くず、飲料水等の缶、古紙等をリサイクルするために、破碎・圧縮等の処理を行っています。



## 生徒の感想

- 鉄、アルミ、ステンレスなどプレスして会社に納品しておられ、なるべく廃棄しないようにしているところが環境に良いなと思いました。
- 一斗缶をプレス機でブロック状に圧縮されたものが250キログラムになりびっくりしました。
- ごみを圧縮すると小さくなるし、ごみが散らばらなくなるので良いなと思った。これから分別を頑張りたいです。
- 大きな木を小さなチップにして再利用するなど、環境に良いことだと思いました。



## 令和元年度 実施校

小学校	松江市立乃木小学校、松江市立大庭小学校、松江市立意東小学校、雲南市立大東小学校 出雲市立須佐小学校、大田市立大田小学校、大田市立久手小学校、大田市立川合小学校 益田市立高津小学校、益田市立益田小学校、津和野町立日原小学校
中学校	出雲市立第二中学校、雲南市立木次中学校
高等学校	島根県立松江農林高等学校、島根県立出雲商業高等学校、島根県立出雲農林高等学校 島根県立三刀屋高等学校掛合分校、島根県立津和野高等学校
特別支援学校	島根県立松江清心養護学校、島根県立松江養護学校安来分教室

## 令和2年度 実施学校 (R2.12月末時点)

小学校	松江市立乃木小学校、松江市立意東小学校、出雲市立須佐小学校、雲南市立大東小学校 雲南市立木次小学校、大田市立大田小学校、大田市立久手小学校、大田市立川合小学校 江津市立江津東小学校、益田市立益田小学校、益田市立高津小学校、益田市立鎌手小学校 益田市立西益田小学校、益田市立中西小学校、津和野町立日原小学校、津和野町立青原小学校
中学校	雲南市立木次中学校、益田市立益田東中学校
高等学校	島根県立松江農林高等学校、島根県立出雲農林高等学校、 島根県立三刀屋高等学校掛合分校、島根県立津和野高等学校
特別支援学校	島根県立松江養護学校安来分教室